

2010年度 第2回日本語教育巡回研修会  
2010.8.24-26

自律学習能力の育成を図る教室活動  
ーモニタリングと自己評価の基準確立を目指してー

ワークショップ2

衣川隆生  
(名古屋大学留学生センター)

基準とモニタリングの事例1

- 『単身赴任制度はやめるべきだ』と主張する人に賛成する外国人の立場から、単身赴任に賛成している人を説得するような新聞投書を書いてください。
- 「現在『単身赴任』の問題についてはよく聞いたらしいである。私は外国人だが、この問題についてちょっと意見を言わせていただきたいと思う。」

基準とモニタリング・評価の事例1

- 最近、現在、現在、単身
- 新聞に出しますから、漢字たくさん使った方が、いいですね、…………①
- よく聞いた、らしいで、で、らしいである
- 必要な、らしい、らしいだけでいいですか
- 聞いた、らしいである…………②
- 言わせて、いただ、いただ、いただきたい、
- 何体を書いたらいいんですか、今、普通体を書いてるんですけど、丁寧文で、書いた方がいいんじゃないんですか
- と、思います、と、思う、ね、思う…………

基準とモニタリング

- 基準が未確立
- =>気づかないから訂正もできない。
- 基準が確立&意識化①③
- =>気づきあり・訂正可能
- 基準があいまい②
- =>気づきあり・保留
- 基準を教えればいいのか？

基準とモニタリング・評価の事例2

- 私の普通の書き方ですから、問題、出してから、説明する、それから最後に少しのまとめとか書いて。じゃないと、私、終われないです。
- ……………
- でも、日本語は最初に問題は出さなくて、理由を全部書いて、最後に賛成とか書く。先生に言われても、どうしても慣れない。書けないんです。

基準とモニタリング

- 基準が複数ある・基準を教えられる
- =>自分でそれが正しい・適切だという信念が確立していないとだめ
- =>信念の確立は納得が必要
- =>情報が伝達されるだけでなく信念の確立を促すような活動が必要

## 日本語能力試験の基準の改定

- 旧1級
  - 高度の文法・漢字(2000字程度)・語彙(10000)語程度を習得し、社会生活をする上で必要であるとともに、大学における学習・研究の基礎としても役立つような、総合的な日本語能力(日本語を900時間程度学習したレベル)
- 新N1
  - 課題遂行のための言語コミュニケーション能力
  - 新試験では、日本語に関する知識とともに実際に運用できる日本語能力を重視

## 課題とは

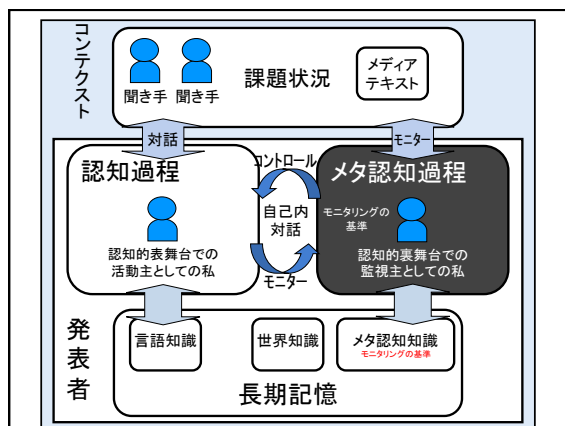
- 何らかの目標や目的を達成するために、積極的に取り組むもの
- 手紙やEメールなどへの返事、ビジネスでの交渉、研究発表、物語を書いたりすることなど、言語を使って取り組む課題
- 新試験では、学習者が現在日本語を使用している、または将来日本語を使用すると予想される状況を「目標言語使用領域(以下、本節内では「領域」)」として設定

## 口頭発表及び質疑応答(以下発表)

- 発表者と聞き手が対話を通して情報を共有していく一種の課題解決過程
- 課題解決能力
  - 「課題の成就のため、さまざまなコンテキスト、条件、制約の下に、ある領域・テーマと関連するテキストを産出したり受容したりする。その行為を当事者自らが観察・モニターする中で(中略)学習、強化、修正されたりする(ヨーロッパ評議会, 2004,p.9)」

## 課題解決能力を身につけるために

- 適切なコンテキスト、条件、制約の下で発表する機会を持つこと
- 発表者自身がモニターしながら発表を行うこと
  - 進行モニタリング  
進行中の課題解決過程をモニター
  - 反映モニタリング  
課題解決後に達成度などをモニターし、それに基づいて次回の目標を計画する



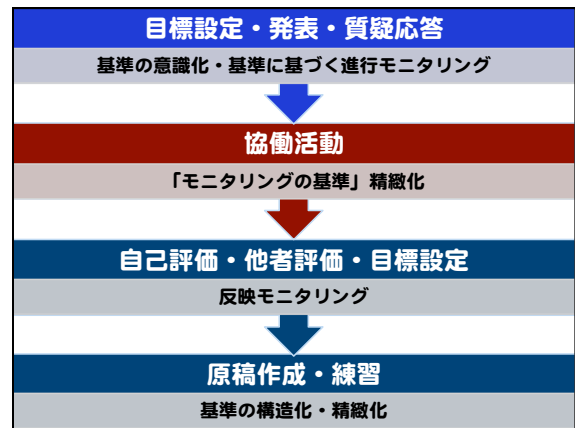
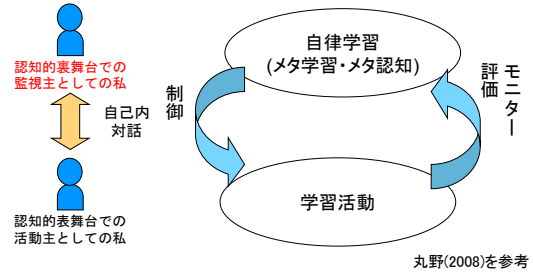
## モニター、評価を適切に行う条件

- 「モニタリングの基準」がメタ認知知識として内在化されていること
  - 基準が教師から与えられていても、それらが整理された形で内在化されていない場合も多い
- 「モニタリングの基準」が参照可能な形で意識化されていること
  - 発表時には「次に何を話すか」に作業記憶の大半を使ってしまい、自分自身の言語活動をモニターするための余裕がない場合も多い

## 発表テーマを与えた目的・効果

- 中上級日本語学習者は発表についての自分なりの**モニタリングの基準**を有している。
- これらの基準は相互行為を目的として「**言語表現化・外言化する**」ことにより、**意識化**される。
- これらの基準は相互行為を目的として「**言語表現化・外言化する**」ことにより、**内在化**され、**精緻化**される。
- 学習者の基準を教師が把握可能

## 評価者B/Cの役割・効果



## 参考文献

- 衣川隆生(2008)「自律学習能力の顕在化を目指したコース運営-模擬面接と学習経過報告を通して-」『名古屋大学日本語・日本文化論集』第16号, p.79-97
- 国際交流基金・日本国際教育支援協会(2002)『日本語能力試験出題基準[改訂版]』凡人社
- 国際交流基金・日本国際教育支援協会(2009)『新しい「日本語能力試験」ガイドブック』<http://www.jlpt.jp/reference/materials.html>
- 丸野俊一(2008)「心を司る「内なる目」としてのメタ認知」『現代のエスプリ「内なる目」としてのメタ認知』No.497, p.5-17.
- ヨーロッパ評議会(2004)『外国語教育II 外国語学習、教授、評価のためのヨーロッパ教育共通参照枠 Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment(吉島茂・大橋里枝(他)訳・編)』朝日出版社